

民主主義とは



Think ●…考えるコーナー(5分~10分) / Work ✎…作業するコーナー(10分~20分)

1年[]組[]番 名前[]

(I) 民主主義とは

政治の方法はいくつかあり、それぞれのしくみや長所短所を理解しておく必要がある。

- ・[¹]: 一人で決定する政治の典型。物事は円滑に進みやすいが、一人の決定に依存する。
- ・[²]: 私たち自身で、私たちのことを決める形。Democracyともいう。
この特徴をよく表したのものとして、[³]によるゲティスバーグ演説が有名。

column 📖 リンカーン大統領によるゲティスバーグ演説



エイブラハム・リンカーン : 第16代アメリカ大統領

1863年、南北戦争史上最大の激戦となった「ゲティスバーグの戦い」の跡地で、リンカーン大統領による演説が実施された。アメリカ合衆国が、南北戦争という試練を乗り越えて「新しい自由を生み出す」ためには、「人民の、人民による、人民のための政治」が必要であることを、聴衆に力強く訴えた名演説であった。

この演説はたった3分程度のものであったが、アメリカだけでなく世界中に民主主義の根本を訴えるものであった。実際に、日本国憲法の前文にも同様の内容が引用されており、影響力の高さが感じられる。

(II) 直接民主制と間接民主制

民主主義

- [⁴]…直接決定に参加する制度 ○最も民主主義を体現 ×大規模な単位では難しい
- [⁵]…選ばれた代表者が決定を行う ○代表者で十分な熟議 ×民意と離れる可能性

間接民主制のしくみ [⁶]民主主義 選ばれた代表者が決定を行う

[⁷]民主主義 選挙で選ばれた代表による議会で決定を行うこと

議会制民主主義では「多数決の原理」が基本となるが、多数派=正しいとは限らないことに注意。数の力によって間違った決定（「多数者の専制」:[⁸]）が行われないよう、時には[⁹]も重視して、物事の決定に納得できるような制度を実施していくことが大切である。

また、そもそも多数決の方法にも試行錯誤が必要になる。シンプルな多数決で民意を反映できるだろうか？ 今日では多数決についての実験を通して、考えを深めてみよう。

Work ✎ 正しい「多数決」とは？

「多数決」といってもさまざまなやり方があるのは知っているだろうか。今日はオーソドックスな方法から、最近流行の最先端の方法まで、いろいろなパターンで多数決をやってみよう。クラスを9つの班に分け、投票をやってみる。

本日の投票テーマ

この世で一番うまいアイスクリームはどれか



① チョコモナカジャンボ



② パルム



③ pino



④ パピコ



⑤ 雪見だいふく

班ごとで相談し、5つの選択肢を「順位付け」してもらいたい。※これは途中で変えないこと！

1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 4位〔 〕 5位〔 〕

No,1 シンプルな多数決 ★最もオーソドックスといえるパターン

A班〔 〕 B班〔 〕 C班〔 〕 D班〔 〕 E班〔 〕
F班〔 〕 G班〔 〕 H班〔 〕 I班〔 〕

勝者

No,2 決選投票を含める

No,1の投票で上位に残った2つ →〔 〕と〔 〕
その2つを選んでいない班が、どちらかを選択する決選投票

勝者

No,3 ボルダ方式対決

「ボルダルール」とはフランス海軍の科学者ジャン＝シャルル・ド・ボルダが考案した手法。

候補のうち **1位には3点、2位には2点、3位には1点**と配点するルールを決め、獲得した点数の多い項目を選出する。
通常の多数決では評価されない2位以下の得点も考慮され、より多くの人からの評価を集めた人が選ばれる利点がある。

A班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 F班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
B班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 G班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
C班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 H班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
D班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 I班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
E班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕

勝者

No,4 コンドルセ方式対決

コンドルセ方式とはフランスの数学者コンドルセが提供した方法であり、「選好投票」とも呼ばれる。複数の候補者に対して投票者ごとに順位をつけ、2つずつ比較し、他の候補者よりもっとも優れていた候補を選出する。
わかりやすく言えば、1つずつ取り出して、総当たり戦をするという感じ！

勝敗を決める基本的なルール

- ①より高い順位がある方が強い
- ※2位が4つよりも1位が1つの方が勝つ
- ②同じ順位しかない場合は、その順位が多い方が勝つ
- ※2位2つよりも2位3つが勝つ

勝者

	①ジャンボ	②パルム	③pino	④パピコ	⑤雪見
①チョコモナカ					
②パルム					
③pino					
④パピコ					
⑤雪見だいふく					

今回の活動を通して、最も感じてもらいたかったのは、多数決＝全体の意思ではないということ。多数決にすれば一見合理的で平等に思えるかもしれないが、その裏では自分の意見が通らない少数派が存在していることを忘れてはならない。ちなみに、個人で「1番好きなアイスは？」と聞いた場合どんな結果になるだろう…。(実験) 多数決の結果とはかけ離れたものになるかもしれない。今回は教室で実施したが、これが国全体の選挙で考えれば、自分の意見が通らない人はさらに多くなってしまう。選挙や政治は、効率的にやることも大切だけれど、どうすれば少数派の意見も取り入れられるかを考えながら、選挙制度やマスメディアのあり方を見直し続ける必要がある。また、みんな自身も、「多数派＝正しい」と思い込まずに、自分の頭で考えられる力が重要になってくる。

民主主義とは



Think ●…考えるコーナー(5分~10分) / Work ✎…作業するコーナー(10分~20分)

1年[]組[]番 名前[]

(I) 民主主義とは

政治の方法はいくつかあり、それぞれのしくみや長所短所を理解しておく必要がある。

- ・^[1] **君主制**]: 一人で決定する政治の典型。物事は円滑に進みやすいが、一人の決定に依存する。
- ・^[2] **民主主義**]: 私たち自身で、私たちのことを決める形。Democracyともいう。
この特徴をよく表したのものとして、^[3] **リンカーン**]によるゲティスバーグ演説が有名。

column 📄 リンカーン大統領によるゲティスバーグ演説



エイブラハム・リンカーン : 第16代アメリカ大統領

1863年、南北戦争史上最大の激戦となった「ゲティスバーグの戦い」の跡地で、リンカーン大統領による演説が実施された。アメリカ合衆国が、南北戦争という試練を乗り越えて「新しい自由を生み出す」ためには、「人民の、人民による、人民のための政治」が必要であることを、聴衆に力強く訴えた名演説であった。

この演説はたった3分程度のものであったが、アメリカだけでなく世界中に民主主義の根本を訴えるものであった。実際に、日本国憲法の前文にも同様の内容が引用されており、影響力の高さが感じられる。

(II) 直接民主制と間接民主制

民主主義

- ^[4] **直接民主制**]…直接決定に参加する制度 ○最も民主主義を体現 ×大規模な単位では難しい
- ^[5] **間接民主制**]…選ばれた代表者が決定を行う ○代表者で十分な熟議 ×民意と離れる可能性

間接民主制のしくみ ^[6] **代表制**]民主主義 選ばれた代表者が決定を行う

^[7] **議会制**]民主主義 選挙で選ばれた代表による議会で決定を行うこと

議会制民主主義では「多数決の原理」が基本となるが、多数派=正しいとは限らないことに注意。

数の力によって間違った決定（「多数者の専制」:^[8] **トックビル**]）が行われないよう、時には^[9] **熟議**]も重視して、物事の決定に納得できるような制度を実施していくことが大切である。

また、そもそも多数決の方法にも試行錯誤が必要になる。シンプルな多数決で民意を反映できるだろうか？ 今日では多数決についての実験を通して、考えを深めてみよう。

Work ✎ 正しい「多数決」とは？

「多数決」といってもさまざまなやり方があるのは知っているだろうか。今日はオーソドックスな方法から、最近流行の最先端の方法まで、いろいろなパターンで多数決をやってみよう。クラスを9つの班に分け、投票をやってみる。

本日の投票テーマ

この世で一番うまいアイスクリームはどれか



① チョコモナカジャンボ



② パルム



③ pino



④ パピコ



⑤ 雪見だいふく

班ごとに相談し、5つの選択肢を「順位付け」してもらいたい。※これは途中で変えないこと！

1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 4位〔 〕 5位〔 〕

No,1 シンプルな多数決 ★最もオーソドックスといえるパターン

A班〔 〕 B班〔 〕 C班〔 〕 D班〔 〕 E班〔 〕
F班〔 〕 G班〔 〕 H班〔 〕 I班〔 〕

勝者

No,2 決選投票を含める

No,1の投票で上位に残った2つ →〔 〕と〔 〕
その2つを選んでいない班が、どちらかを選択する決選投票

勝者

No,3 ボルダ方式対決

「ボルダルール」とはフランス海軍の科学者ジャン＝シャルル・ド・ボルダが考案した手法。

候補のうち **1位には3点、2位には2点、3位には1点**と配点するルールを決め、獲得した点数の多い項目を選出する。
通常の多数決では評価されない2位以下の得点も考慮され、より多くの人からの評価を集めた人が選ばれる利点がある。

A班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 F班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
B班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 G班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
C班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 H班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
D班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕 I班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕
E班 1位〔 〕 2位〔 〕 3位〔 〕

勝者

No,4 コンドルセ方式対決

コンドルセ方式とはフランスの数学者コンドルセが提供した方法であり、「選好投票」とも呼ばれる。複数の候補者に対して投票者ごとに順位をつけ、2つずつ比較し、他の候補者よりもっとも優れていた候補を選出する。
わかりやすく言えば、1つずつ取り出して、総当たり戦をするという感じ！

勝敗を決める基本的なルール

- ①より高い順位がある方が強い
- ※2位が4つよりも1位が1つの方が勝つ
- ②同じ順位しかない場合は、その順位が多い方が勝つ
- ※2位2つよりも2位3つが勝つ

勝者

	①ジャンボ	②パルム	③pino	④パビコ	⑤雪見
①チョコモナカ					
②パルム					
③pino					
④パビコ					
⑤雪見だいふく					

今回の活動を通して、最も感じてもらいたかったのは、多数決＝全体の意思ではないということ。多数決にすれば一見合理的で平等に思えるかもしれないが、その裏では自分の意見が通らない少数派が存在していることを忘れてはならない。ちなみに、個人で「1番好きなアイスは？」と聞いた場合どんな結果になるだろう…。(実験) 多数決の結果とはかけ離れたものになるかもしれない。今回は教室で実施したが、これが国全体の選挙で考えれば、自分の意見が通らない人はさらに多くなってしまう。選挙や政治は、効率的にやることも大切だけれど、どうすれば少数派の意見も取り入れられるかを考えながら、選挙制度やマスメディアのあり方を見直し続ける必要がある。また、みんな自身も、「多数派＝正しい」と思い込まずに、自分の頭で考えられる力が重要になってくる。